

(1) 実践の概要

昔のように美しい塩屋海岸を取り戻すために、海岸を清掃したり、海洋ごみについて調べたりして、考えたことをもとに環境に優しい取り組みを行い、広める実践。

(2) ここがキーポイント!!「問いと見通し」と「振り返り」

★実際に海岸へ行くこと、昔の様子を知ることで海ごみ問題への課題意識が生まれる。(実践の具体①)

★継続的に海岸へ足を運ぶことで、どんどん流れつく海ごみを目の当たりにし、「自分にできることは何だろう?」「みんなで何かできることをしていかないと!」につながる。(実践の具体③)

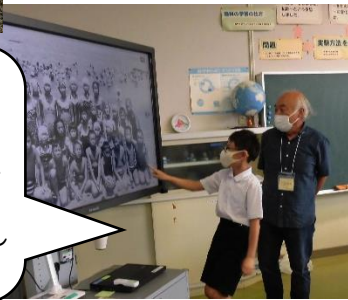
(3) 実践の具体

① 環境問題にはどのようなものがあるのかを知り、牟礼町にも関連のある海ごみ問題に焦点を当てた。塩屋海岸へ足を運び、想像以上にゴミがたくさんある現状を知り、単元の課題設定を行った。



思ったよりもゴミがあったよ。学校に帰って、ゴミの種類を調べてみると、プラスチックや紙製品が多いことが分かったよ。

昔の塩屋海岸は、こんなに人でぎわう海水浴場だったんだな!昔のようにきれいで、地域の人が訪れる海岸にもどってほしいな。



②海ごみがどこから流れてきているのかに疑問をもち、調べた。ゴミ袋購入の募金活動と海ごみポスターで塩屋海岸をきれいにするためのよびかけをし、協力をお願いした。



海ごみはほとんどが家庭ごみらしい。毎日塩屋海岸でゴミ拾いをしている地域の方が、ゴミを捨てるのにもお金がかかると言っていた。



道の駅やガソリンスタンドには人がたくさん来そうだ。ゴミ袋購入募金と海ごみポスターの掲示に協力してもらえようをお願いしてみよう。



でも…

④自分たちで実践をして、取り組みやすさや効果について感じたことを交流した。そこから、少しでも全校生に知ってもらいたいこと、広げたい活動を動画やポスターで発信した。塩屋海岸への愛着を感じ、できることを継続していきたいという意欲をもつことができた。



ゴミの分別をすることやポイ捨てをしないことは、みんなにも協力してもらいやすそうだね。

海ごみを生き物が食べちゃうと命があぶないよ。環境のためにも、みんなでゴミを減らしていきたいな。



③募金箱に励ましのメッセージが入っていたり、募金と交換したゴミ袋を無事に渡したりすることができた。しかし、再び塩屋海岸に行ってみると、前回清掃したにも関わらず、多くのごみがあった。そこで、まず生活の中でできることを考え、実践していくことにした。



前にみんなで拾ったのに、ゴミが全然減っていない!マイクロプラスチックって拾いにくいな……。

自分たちには、何ができるんだろう。プラスチックを減らすための取り組みを実践してみよう!

